

令和6年度 学校運営協議会だより 第1号

令和6年5月1日

—— 令和6年度 第1回 学校運営協議会を開催しました ——

4月17日(水)に今年度1回目となる、学校運営協議会(兼コンプライアンス委員会)を開催しました。学校運営協議会(コミュニティ・スクール)制度はこれまでの学校評議員会から発展し、学校と保護者や地域の方々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みです。平成29年度より法制化による設置義務が課され、本校でも協議会を設置しています。

今年度の委員は、地域の様々な分野で活躍されている皆様、本校校長、副校長、事務長、教頭、部主事、他分掌課長等と、PTA代表によって構成されています。以下、目的と委員の皆様のご紹介、今回の会のご報告をします。

◎ 目的 ・令和6年度 学校経営計画の提案を受け、委員による意見交換や共通理解を基に、今年度の本校の学校経営について承認をいただく。

・委員による校内参観を行い、本校や本校の児童生徒への理解を深める。

◎ 学校運営協議会委員

前小山町教育長	高橋 正彦 様	御殿場市 高内区長	小林 昌平 様
トヨタ自動車(株) 東富士研究所管理部	細井 敏光 様	御殿場市役所富士岡支所長	坂上 剛 様
社会福祉法人ステップワン 理事長兼施設長	根上 豊子 様	本校PTA代表	鈴木 里美 様
御殿場市役所危機管理課	中村 信雄 様		

◎ 当日の様子と内容

○校長挨拶

運営協議委員の方には、学校運営へのご協力をありがとうございます。学校と地域とのつながりが課題、話題に上がる場となってほしい。地域の大人同士だけでなく、子ども同士も、また、子どもと大人もつながる学校づくりをしていきたい。

○校内参観した感想

中村様 昨年の参観では一人ひとりに寄り添った授業を行っていることが分かった。今年は自分の見方も深まって、一人ひとりへの支援が工夫されている様子がよく見てとれた。

根上様 子どもが大切にされていると感じた。卒業後、基本がしっかりできていると、受け入れ側としてはありがたい。小学部では小学部なりの、高等部では高等部なりの学年に応じた指導や工夫がされていて感心した。

高橋様 子どもたちを受け入れて、のびのびとすごせるようにしてくれている。その中でも、育てなければならない部分は上手に育てていることが分かった。子どもが大切にされているということがよく分かった。

小林様 初めて参観した。先生と生徒が一体になってやっている印象を受けた。子どもが、ものを覚えようとしている力も感じられた。校内の図工・美術作品については、作品の色彩、構図に特色があり、内側から出ているものが感じられる。とても感動した。

○校長より：学校経営計画の説明

学校教育目標は知・徳・体の3観点でとらえており、目標の具現化のために、4つの柱がある。アの授業力では、昨年度に12年間のつながりについて見直した。12年間のつながりというのは、児童生徒のキャリア、つまりはどういうふうに生きていくかということにつながる。イの安心力では、子どもたちにとって何が安心につながるかは想像していき



きたい。ウの共創力では、家庭、地域と、さらに細やかなつながりをもっていきたい。初めにも言ったが、大人同士だけでなく、子ども同士、大人と子ども同士のつながりがあるような学校と地域でありたい。エのチーム力は学校のグランドデザインを参照。一番下の土台となるところにチーム力がある。4月から赴任して、本校教職員の気質としては穏やかで優しい、という印象を受けている。しかし、どのように課題に取り組んでいくかが整っていない。地域の協力も得ているが、教職員が働きやすい職場やICTの環境整備等も含めながら取り組んでいきたい。学校教育目標にある、「自分らしさ」と「のびやかに」「たくましく」「自分らしく」では、一人一人が自分らしさをどのように発揮するかを考えていく。がんばったことを認め、今もっている力や、できていることが伸びていくよう、努めていく。「のびやかに」は、安心や安全できる人やものの環境づくりからとなる。環境を充実させ、子どもを支えることが、「たくましく」育てていくことにもつながっていると思う。

○学校経営計画の説明後の御意見

細井様：12年を通した、一貫した教育が素晴らしい。個々の生徒にあった、個性を大事にした教育が随所でなされている。生徒に付き添う教職員が密着して支援していることに驚いた。大人の人数がとて多い。子どもたちは多くの方に支えられて育っていると感じた。企業側の視点として、教職員の方がずっと気を張っているように感じた。教職員へのケアについて、独自の取り組みはあるか。

副校長：教職員のケアについては、この後のコンプライアンス委員会の取組で御説明します。

鈴木様：感想だが、始業式からまだ1週間たっていないのに、どのお子さんも落ち着いていてびっくりした。笑顔も多くて、先生たちとの信頼関係ができつつあると感じた。学部それぞれの目標が素晴らしい。1年間よろしく願います。

○コンプライアンス委員会

教頭より、コンプライアンス意識向上のため、継続的な取り組みとして、月ごとにテーマを決めて、「ポジティブタイム」として語り合い、学び合う場を作っている。

不祥事という言葉はネガティブなイメージだが、不祥事を未然に防ぐ方法を学び合っていくことが大切。土台となる職場環境が豊かになり、働きがいややりがいを職員間で共有してくことで、結果としての不祥事根絶を目指したい。教職員の職場環境づくりとしては、8、9月に予定している。教職員同士のコミュニケーションの質的向上をもっと深めるために、伝えることや聴くこと、共感し合うことを講師から学ぶ。怒りなどの感情の特性を学び、教職員のストレスについて意見を交わし合う。場や人を、集団を変えて語り合うことで、より強いチームを作っていきたい。

一方、知識として学ぶことも大切なので、リラックスする方法や、自己開示する場も業務の中で取り組んでいく。また、私たち教職員を取り巻く環境は多岐に渡るため、法的な理念や事故事犯、ハラスメント、体罰、不適切な言動等への基本的な理解を深める。10月にはスクールロイヤーから、法律の専門家からの視点で学ぶ。別紙リーフレットは4月に県教委が作成。全県共通で考えるもの。教職員、子ども、家庭にも配布して、研修にも取り入れていく。